



加山興業株式会社

創業当初から継続する「サステナブル環境経営モデル」



社会のニーズに合わせた多角的事業経営により、
統合的な社会課題解決を目指す

加山興業株式会社の取組は、高度経済成長期の中で新しいものが次々と作られ、ごみの不法投棄が問題となっていた60年前から始まった。当時、工場の近くの通学路で小学生がハンカチで口をおさえながら通学するなど、廃棄物処理企業に対する偏見があったが、それを見た経営者が、「産業廃棄物を適切に処理することが、よりよい未来を作る」と考えたことから取組を開始した。時代とともに変わっていく社会の要望と法律（環境基本法）に対応して、適切に取組を変化させてきた。

加山興業は、循環型社会・脱炭素社会・地球共生・環境共生の一体的な実現を目標に様々な新しい事業に挑戦している。例えば、循環型社会を実現するために、廃棄物を原料とするRPF燃料（石炭に比べCO₂排出量が少ない）の製造・供給をすることで、受け入れた廃棄物のリサイクル率を80%に維持している。脱炭素社会実現のために、三重県松阪市や長崎県平戸市で自然エネルギー設備の導入を行うとともに、自社の経済活動における再生可能エネルギー使用比率を、現在の80%から2025年には100%にまで上げることを目標としている。また、地球共生に向けては、SDGsの普及活動に力を入れており、小学校での出前環境授業や、一般、企業向けにもSDGsセミナーを開いている。環境共生に向けては、自社周辺の環境が保全されていることの証明として、廃棄物処理場の裏で養蜂事業を実施するとともに、地域の方に蜂蜜の採集体験をしてもらうことで、生物多様性を学ぶ機会に繋げている。

今後は、廃棄物の焼却時に生じるCO₂の利活用を課題として検討していくとともに、バッテリーや太陽光パネルなど、処分が難しい素材もリサイクル処理できるように研究開発を進めていく。普及活動においては、養蜂事業で採取した蜂蜜を利用し食品に加工するなど、より社会との繋がりを強くするための取組を考案していきたい。

企業担当者の想い

対外的な普及活動にも力を入れる加山興業は長期にわたる活動により、環境に対する意識の変革を促しています。意識の変化が連鎖することで、地球の環境を守ることができます。環境保全が特別なことではなく、当たり前のこととして捉えられるようになること、そして社会に生きる一人一人が自己の行動に責任を持つことを望みます。そのために、教科書では学べないことに対して実際に触れて学ぶ機会を提供する環境教育にも力を入れていきたいです。

